

利尻富士町のリシリコンブを活用したブルーカーボン事業 ～日本のだし文化を守る取り組み～



北海道利尻富士町・利尻漁業協同組合

◆プロジェクトの概要

利尻島沿岸域は、リシリコンブの主産地であり、天然漁場の磯焼けが進んだことから、安定生産のため養殖コンブへの転換を進めました。この養殖への転換は、ブルーカーボン生態系による **CO₂吸収源の維持・拡大** に貢献している可能性があることから、利尻富士町では、気候変動緩和策のプロジェクトとして位置付け、推進することとしました。さらに、本プロジェクトの推進は、**日本の和食（だし）文化を守る** 上でも重要と考えています。

今回の申請では鵜泊昆布養殖部会が生産するリシリコンブのCO₂吸収量を計上しています。



水揚げされる養殖コンブ



株主による昆布干し体験

◆プロジェクトの特徴

- 地球環境問題を考え、漁業者自らが調査に参加しています。また、漁業者と消費者を直接結び付ける **利尻昆布株主事業** を実施。株主には生産されたコンブを送付するほか、**オーナーニュースの発行や現地での漁業体験を通じてブルーカーボンの取組を発信** しています。

【R5実績】株主176名（道内108名、道外68名）、5組9名の漁業体験の受入

- 次世代を担う小中学生に昆布の大切さを伝えるため、ふるさと教育・環境教育の一環として **昆布集め体験** や **出前授業（コンブの話）** を実施。生産方法のほか、ブルーカーボンの取組や、うま味成分について直接漁業者から伝えています。
- 天然漁場の磯焼け海域においても、**自然の波浪の力を利用し、海底の石灰藻を清掃することでコンブ藻場を回復** させるチェーン振り事業にも取組んでおり、気候変動対策のみならず、コンブ藻場の再生・回復による **魚介類・ウニ類等多様な生物環境の保全** が期待できます。



出前授業（こんぶの話）



チェーン振り事業